

診療録情報使用に関するお知らせ

研究課題名： 東邦大学医療センター大森病院における肺結核接触者健診の現状と IGRA 陽性例のリスク因子の解析

研究の背景および目的：

結核感染の診断法の一つである Interferon-Gamma Release Assays (IGRA) は 2005 年 4 月から保険適用となりました。感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引きとその解説（平成 26 年改訂版）では、感染した場合に発病リスクが高い者、または重症型結核が発症しやすい接触者などに対して、IGRA による結核接触者健診（接触者健診）の実施を推奨しています。特に医療従事者は結核感染リスクが高いことが知られており、医療施設における結核感染対策は重要な課題となっています。医療機関では各種処置など一般の環境とは異なる感染リスクを考慮する必要があり、「結核院内（施設内）感染対策の手引き（平成 26 年版）」が発刊されていますが、健診対象者についての具体的な選定方法の記載はないため、どこまで健診対象者とすればいいか対応に苦慮することがあります。

そこで、東邦大学医療センター大森病院呼吸器内科では、IGRA 陽性と IGRA 陰性の健診対象者について比較検討を行い、結核接触者感染のリスク因子を明らかにし、効果的な情報聴取の方法を考案することを目的として本研究を計画しました。

研究対象および方法：

この研究は東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。2006 年 1 月～2017 年 7 月までに東邦大学医療センター大森病院において、結核の接触者健診を受けた症例（599 例）と、結核と診断された症例（46 例）を対象とします。診療録から抽出した情報を解析することにより調査します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏洩することは一切ございません。本研究に関してご質問のある方、診療情報を本研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡ください。

連絡先および担当者

東邦大学医療センター大森病院

呼吸器内科

教授 岸 一馬

電話 03-3762-4151 内線 6552